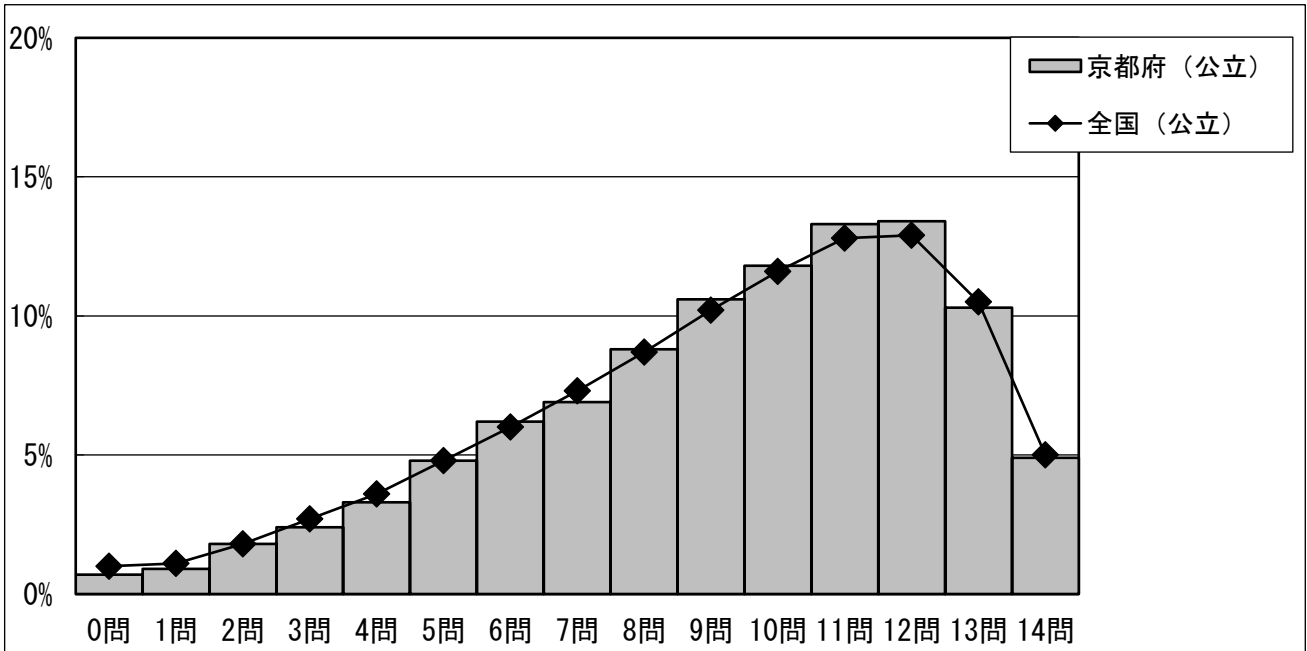


## Ⅱ 京都府における国語の状況と改善のポイント

\*すべて京都市を除く京都府のデータです

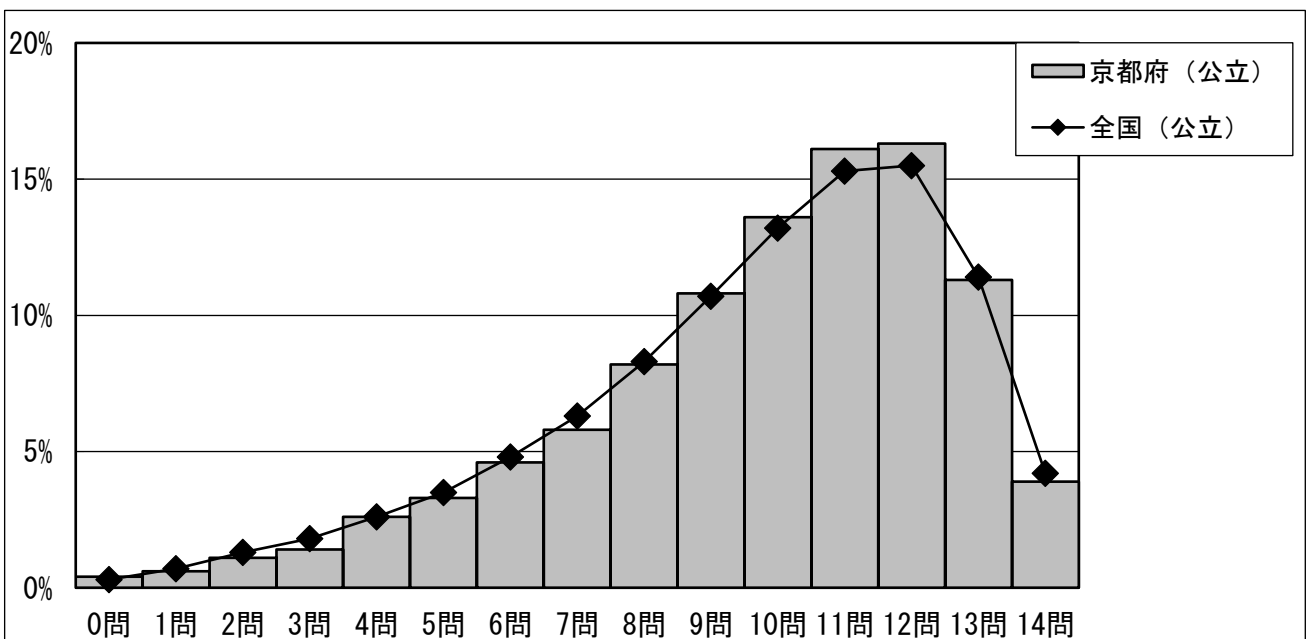
## 1 小学校国語の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	9,315	9.3 / 14	66	10.0	3.2
全 国	965,308	9.2 / 14	65.6	10.0	3.3



## 2 中学校国語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	9,024	9.8 / 14	70	10.0	2.8
全 国	891,820	9.7 / 14	69.0	10.0	2.9



### 3 設問別調査結果 [国語]

### 小学校 [国語]

京都市を除く京都府一児童（公立）

#### 集計結果

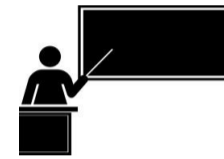
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,315	198	66
全国（公立）	965,308	18,668	65.6

#### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.5	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.5	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	66.4	66.2
B 書くこと		49.9	48.5	
C 読むこと		67.2	66.6	
評価の観点	知識・技能	71.0	70.5	
	思考・判断・表現	62.7	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	72.3	71.8	
	短答式	64.1	63.6	
	記述式	52.2	51.3	

◇正答率が全国平均を上回っている設問が11問ある。そのうち、8問は正答率6割を超えている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている。

◆正答率が全国平均を下回った設問が3問あり、そのうち6割を下回った設問が1問ある。それぞれの考えを伝え合えるようなテーマを設定するなどの工夫をすることが必要である。



#### 設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	85.5	85.5	0.7	0.9
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.7	68.8	0.7	1.0
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	85.2	84.7	0.8	1.0
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	話すこと・聞くこと	47.6	47.7	2.4	3.0
2一(1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	読むこと	69.5	68.4	0.6	1.0
2一(2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	読むこと	70.0	70.6	1.0	1.6
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/> A に入る内容を書く	読むこと	69.7	68.3	10.2	12.2
2三	【山村さんの文章】の <input type="text"/> B に入る内容として適切なものを選択する	読むこと	59.6	59.2	2.2	3.2
3一	【文章2】の「 <input type="text"/> 」の部分で、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	書くこと	60.6	59.2	1.7	2.5
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	書くこと	39.3	37.7	11.4	14.5
3三ア	【文章2】の中の——部アを、漢字を使って書き直す（ <u>ろくが</u> ）	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.0	65.2	5.3	8.1
3三イ	【文章2】の中の——部イを、漢字を使って書き直す（ <u>はんせい</u> ）	言葉の特徴や使い方に関する事項	59.4	58.7	6.9	10.2
3三ウ	【文章2】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す（ <u>したしむ</u> ）	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.8	67.1	10.6	14.7
3四	(一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	78.5	77.9	3.8	5.9

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を   で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を   で、表示しています。

### 3 設問別調査結果 [国語]

### 中学校 [国語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

#### 集計結果

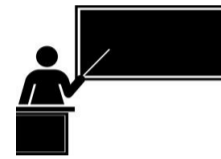
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,024	98	70
全国（公立）	891,820	9,340	69.0

#### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.7	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	44.3	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	70.0	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	65.8	63.9
B 書くこと		44.3	46.5	
C 読むこと		68.5	67.9	
評価の観点	知識・技能	69.6	69.0	
	思考・判断・表現	63.1	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	74.0	73.7	
	短答式	71.3	70.3	
	記述式	58.4	57.4	

◇正答率が全国平均を上回っている設問が10問ある。そのうち、8問は正答率6割を超えている。無解答率は、一問を除いた10問において全国平均を下回っている、もしくは同率である。

◆正答率が全国平均を下回った設問が4問あり、そのうち6割を下回った設問が2問ある。引用の仕方について理解を深めるように指導することや、行書の特徴について指導をすることが必要である。



#### 設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	話すこと・聞くこと	76.0	74.7	3.0	3.8
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	66.2	65.1	0.2	0.1
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	言葉の特徴や使い方に関する事項 話すこと・聞くこと	55.1	51.8	13.2	16.2
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.6	82.3	0.2	0.2
2二①	漢字を書く（のぞく）	言葉の特徴や使い方に関する事項	85.0	82.1	7.2	8.8
2二②	漢字を書く（よろこんで）	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.2	80.5	2.7	3.3
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	情報の扱い方に関する事項 書くこと	44.3	46.5	7.0	9.0
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	53.8	52.5	0.4	0.7
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	84.3	84.0	0.2	0.3
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	読むこと	61.4	62.0	1.0	1.0
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	読むこと	75.7	73.8	10.4	13.3
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	36.7	39.4	0.8	0.9
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	90.6	90.1	0.8	1.0
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	82.5	81.1	1.0	1.1

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を   で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を   で、表示しています。

## 5 小学校国語科の授業改善のポイント

### 小学校 言葉の特徴や使い方に関する事項 我が国の言語文化に関する事項

問題〔1ー・二〕

〔3三ア・イ・ウ〕〔3四〕

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎話し言葉と書き言葉との違いを理解している

〔1ー〕(府の正答率 85.5%、全国の正答率 85.5%)

○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができる

〔1二〕(府の正答率 69.7%、全国の正答率 68.8%)

○漢字を使って書き直す(ろくが)

〔3三ア〕(府の正答率 65.0%、全国の正答率 65.2%)

▲漢字を使って書き直す(はんせい)

〔3三イ〕(府の正答率 59.4%、全国の正答率 58.7%)

○漢字を使って書き直す(したしむ)

〔3三ウ〕(府の正答率 67.8%、全国の正答率 67.1%)

○漢字の仮名の大きさ、配列に注意して書くことができる

〔3四〕(府の正答率 78.5%、全国の正答率 77.9%)

#### 解説

- ・〔3三ア〕、〔3三イ〕のように漢字を使って書き直す問題に課題がみられる。「南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしょうかいしたそうです。」という問題でも分かるように、文の中で漢字を書くことが求められている。社会生活の中で実用的に漢字を書こうとすること、また、書けることが必要である。
- ・〔1二〕について、正答の選択肢の文が「～よさを伝え、～」なのに対して、解答類型2の選択肢の文が「～質問し、～」となっている。この選択肢を選んでいる児童の割合は 13.3%と高い。内容は理解しているものの、細かな言葉の違いに気付かずに解答している傾向が見られる。引き続き叙述に即して読むことを繰り返していく必要がある。

#### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(平成 30 年度)

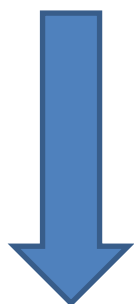
URL : [18plang.pdf \(nier.go.jp\)](http://18plang.pdf(nier.go.jp))

- ◎ 社会生活の中で実用的に漢字を書こうとすること、また、書けることの授業アイデア例として、
- ①同じ音で読む漢字を集める、
  - ②似た形の漢字を集める、
  - ③間違えやすい漢字を集めるといったことが紹介されている。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる〔1三〕(府の正答率 85.2%、全国の正答率 84.7%)

▲互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができる〔1四〕(府の正答率 47.6%、全国の正答率 47.7%)



**解説**

・「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同率である。〔1四〕については、他の条件は満たしているが、「選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いていない」児童が36.4%と多い。指導に当たっては、単純に話をする、話を聞くということではなく、それぞれの考えを伝え合えるテーマを設定するなどの工夫をすることが必要である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和4年度)**

URL : [22plang\\_idea\\_01.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/22plang_idea_01.pdf)

◎ 話し合いの目的を意識できず、自分のこととして考えることができていない場合等の事例である。話し合いについて「話題」、「目的」、「方向性」についてグループで確認する授業例となっている。どのように話し合いを進めさせ、教師がどのようなコメントをするとよいかを紹介されている。

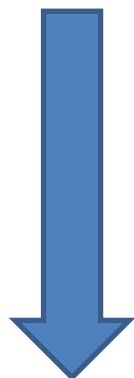
**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる

〔3一〕(府の正答率 60.6%、全国の正答率 59.2%)

▲文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる

〔3二〕(府の正答率 39.3%、全国の正答率 37.7%)



**解説**

・「書くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同率である。〔3二〕については、自分のよさを書いていない児童が、29.2%いた。「共有」の指導事項オについて、「よいところを見付けること。」という文言に注目し、授業を構想していく必要がある。他の児童の文章のよさに目を向けることは、最終的に自分の文章のよさを見付けることにつながるよう指導していくことが大切である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和4年度)**

URL : [22plang\\_idea\\_03.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/22plang_idea_03.pdf)

◎ 「書くこと」の指導事項について、平成 20 年度小学校学習指導要領では、「交流 カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。」となっている。平成 29 年度小学校学習指導要領では、「共有 カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。」となっている。授業アイデア例では、ペアでそれぞれの文章に対する感想や意見を伝え合うことで、自分の文章のよさを見付けるということが紹介されている。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)**

○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基にとらえることができる

〔2一（1）〕（府の正答率 69.5%、全国の正答率 68.4%）

○登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができる

〔2一（2）〕（府の正答率 70.0%、全国の正答率 70.6%）

○人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる

〔2二〕（府の正答率 69.7%、全国の正答率 68.3%）

▲表現の効果を考えることができる

〔2三〕（府の正答率 59.6%、全国の正答率 59.2%）

**解説**

- ・「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っている。
- ・〔2一（1）〕では、解答で2つの正答の内、1つしか解答できていない児童の割合は、27.1%だった。京都府ではこれまでも、「叙述に即して読む」ことに重点をおいて指導してきているが、引き続き「叙述に即して読む」ことに重点をおいて指導していくことが必要である。
- ・〔2一（2）〕では、解答類型3「5と解答しているが、1と解答していないもの」と解答している生徒の割合は、14.0%と高い。原因として、問題文にある②、③の点線部から一番遠い箇所にある「1」の解答が選択しにくかったことが考えられる。段落毎の読みだけではなく、文章全体を見渡して読む習慣を付けることが必要である。
- ・〔2三〕では、「3」と解答している児童の割合が、22.1%と高かった。選択肢にある「～『ぼく』が宇宙に行った不思議さを印象づけている。」という内容が本文の内容に合致していない。〔2一（1）〕でも述べたように、「叙述に即して読む」ことが重要である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和4年度)**

URL : [22plang\\_idea\\_02.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/22plang_idea_02.pdf)

- ◎ 全文掲載シートを用いた事例である。全文掲載シートを、付箋を付けながら読み、他の児童と交流することでさらに、自分の読みが深まる事例が紹介されている。物語の全体像は、「登場人物の人物像」や「登場人物の相互関係」、「物語の展開」などの複数の観点から読むことで、想像することができる。気になる叙述を基にして、考えたことを交流する場面を設定する学習活動が効果的である。



## 5 中学校国語科の授業改善のポイント

中学校 言葉の特徴や使い方に関する事項  
情報の扱い方に関する事項  
我が国の言語文化に関する事項

問題〔2ー〕〔2二①・②〕  
〔2三〕〔3ー〕〔3二〕  
〔4ー〕〔4二〕

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができる(言)

〔2ー〕(府の正答率 83.6%、全国の正答率 82.3%)

◎漢字を書く(のぞく)(言)

〔2二①〕(府の正答率 85.0%、全国の正答率 82.1%)

◎漢字を書く(よろこんで)(言)

〔2二②〕(府の正答率 80.2%、全国の正答率 80.5%)

▲自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる(情)

〔2三〕(府の正答率 44.3%、全国の正答率 46.5%)

▲表現の技法について理解している(言)

〔3ー〕(府の正答率 53.8%、全国の正答率 52.5%)

◎事象や行為、心情を表す語句について理解している(言)

〔3二〕(府の正答率 84.3%、全国の正答率 84.0%)

▲行書の特徴を理解している

〔4ー〕(府の正答率 36.7%、全国の正答率 39.4%)

◎漢字の行書の読みやすい書き方について理解している

〔4二〕(府の正答率 90.6%、全国の正答率 90.1%)

### 解説

- ・〔4ー〕について、正答率 36.7%と低い。解答類型3「ウの部分は、点画を省略して書くことができる」を選択している生徒が、正答率よりも高い、46.6%となっている。希望の「望」の左上「亡」の形が、点画が連続しているところを、「省略」と認識してしまっている。このことから、行書の特徴について指導を充実させる必要がある。

### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和4年度)

URL : [22mlang\\_idea\\_04.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/22mlang_idea_04.pdf)

◎これまで学習してきた行書の特徴を踏まえ、書いた作品のよい点や改善点について話し合う事例である。「線」という字を例にして、生徒が交流しながら学習している授業アイデアが紹介されている。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

○聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができる

〔1ー〕(府の正答率 76.0%、全国の正答率 74.7%)

○論理の展開などに注意して聞くことができる

〔1二〕(府の正答率 66.2%、全国の正答率 65.1%)

▲自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができる

〔1三〕(府の正答率 55.1%、全国の正答率 51.8%)

**解説**

- ・〔1ー〕では、解答類型3「条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの」に分類された割合が、19.2%と比較的高い。条件①は「『最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。』という部分について、どのような言葉を加えて直すと呼びかけたり問いかけたりする表現になるかが分かるように書いている。」条件②は「実際に話すように書いている。」となっている。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という内容を変えてしまっている可能性が考えられる。
- ・〔1三〕では、無答率が13.2%と高い。この問題に答えられるようにするためには、生徒に同様の経験をさせておく必要がある。「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと」について、原稿を作成し、その原稿を修正したり、工夫する点を書き込んだりしたことがあると、無答率を減少させることができると考える。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和4年度)**

URL：[22mlang\\_idea\\_01.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/22mlang_idea_01.pdf)

- ◎ 「最近気になったこと」について、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わるように工夫してスピーチをする学習事例である。まずは、自分が話す内容を決め、実際にスピーチをする。次に、スピーチをする上での工夫についてみんなで考え、自分のスピーチに生かす。この授業アイデアでは、生徒が表現の工夫を書き加えたワークシートの一部などが紹介されている。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

▲自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる（前掲）  
〔2三〕（府の正答率 44.3%、全国の正答率 46.5%）

**解説**

・〔2三〕について、正答の条件として、次の条件を満たして解答していることが挙げられている。①【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から適切な情報を抜き出して書いている。②引用部分をかぎかっこ（「」）でくくって書いている。③「例えば、」に適切に続くように書いている。この内、「条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの」の割合が、43.9%と高い。考えを支える適切な情報を取り出して書くことは身に付いてきているが、根拠を明確にするための適切な引用の仕方の理解については課題があると考えられる。引用するにあたって、必要な部分をそのまま抜き出し、かぎかっこ（「」）でくくるということを、第1学年〔知識及び技能〕の(2)「イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」との関連を図り、引用の仕方について理解を深めるように指導することが有効である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和4年度)**

URL : [22mlang.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/22mlang.pdf)

- ◎【意見文の下書きとコメントの例】を使って、引用の際に気を付けることを考える事例である。資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書くためには、どのようなことに気を付けるかということ、グループで話し合い、理解させる授業例が紹介されている。
- ◎ 質問紙調査にある「1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」で肯定的な回答をするような授業を構想することで、引用を活用する場面を増やすことも授業改善のポイントとして挙げられる。

質問番号	質問事項										
(38)	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
京都府(公立)	21.4	42.2	23.1	10.8	2.4					0.0	0.1
全国(公立)	22.5	40.8	23.8	10.4	2.4					0.0	0.1

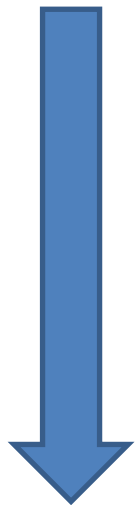
**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)**

○場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に考えることができる

〔3三〕(府の正答率 61.4%、全国の正答率 62.0%)

○場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる

〔3四〕(府の正答率 75.7%、全国の正答率 73.8%)



**解説**

- ・「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っている。〔3三〕については、正答がB→C→Aなのに対して、C→B→Aと解答している生徒が21.0%、B→A→Cと解答している生徒が10.5%と高い割合である。叙述に即して読むことを授業の中で行っていくことが必要である。また、文章の全体像を見通すことが必要である。
- ・〔3四〕「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる」問題について、内容の解釈だけではなく、解釈したことを言語化することに慣れていくことが考えられる。引き続き、同様の学習活動を継続していくことが必要である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和4年度)**

URL : <https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22mlang.pdf>

◎ 場面や描写を相互に結び付けて、結末での登場人物の心情を解釈する学習事例である。文章の全体像を見通すこと、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することが紹介されている。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和4年度小学校国語)**

URL : [22plang\\_idea\\_02.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/22plang_idea_02.pdf)

◎ 全文掲載シートを用いた小学校の事例である。全文掲載シートを、付箋を付けながら読み、他の児童と交流することでさらに、自分の読みが深まる事例が紹介されている。物語の全体像は、「登場人物の人物像」や「登場人物の相互関係」、「物語の展開」などの複数の観点から読むことで、想像することができる。気になる叙述を基にして、考えたことを交流する場面を設定する学習活動が効果的である。